

ヤ マ ガ ラ

Parus varius



分類	スズメ目シジュウカラ科												
特徴	常緑広葉樹林に棲む、背と腹が赤茶色をしたカラ類。日本、朝鮮半島、台湾だけに分布する種で全国に留鳥として広く分布し繁殖するが、北海道では少ない。伊豆諸島と南西諸島のものは地域によって大きさや色彩が違い、数亜種に分けられる。代表的な亜種に三宅島から八丈島にかけて分布し、頬も赤茶色をしたオーストンヤマガラがある。												
生活	樹高の高いよく茂った常緑広葉樹林を好み、落葉広葉樹林にも棲息するが数は少ない。主に林の上層で生活し、枝から枝へ移動しながら葉の茂みにいるガの幼虫などを捕まえる。秋冬には木の実もよく食べる。大きめの虫や木の実は枝の上に運び、足指で押さえてくちばしでつついたり割ったりしてから食べる。秋には木の実を、幹の割れ目や朽木に埋め込んで貯える習性を持っている。産卵期は3～6月、卵数は3～8個、抱卵日数は12～14日位、巣立ちまで18～20日位。												
声	繁殖期には「ツーツー、ピー、ツツピー」といった声で、ゆっくりと繰り返してさえずる。地鳴きは「ニーニーニー」とか「ピーピーピー」という、少し鼻にかかった声である。また、警戒するときには「シーシーシー」と鳴くことが多い。												
見分け方	色彩が特異で、他の種類と見分けるのは容易。												
時期	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
その他	全長(L)14cm 翼開長(W)22cm												
参考文献：山溪カラー名鑑　日本の野鳥													